

6月定例会号

市議会だよりは2月、5月、8月、11月の第2土曜日(定例会号)、1月1日(新年号)に発行します。
今回は9月定例会が開催予定です。



いちかわ

市議会だより

6月定例会

市長提出議案6件を可決

補正予算は自転車乗車用ヘルメット購入費補助金など



自転車に乗る際はヘルメットの着用を

市議会は、令和6年6月定例会を6月7日から6月21日まで開催しました。

6月定例会では、市長から、「市川市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について」、「市川市立幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部改正について」、「令和6年度市川市一般会計補正予算(第2号)」、「市川市立塩浜学園校舎等取壊し工事請負契約約款に基づく賠償金支払請求調停事件の和解について」などの議案6件と諮問2件、報告1件が提出され、これらを一括議題として8会派が代表質問を行いました。

議員からは、「下水道の維持管理・更新におけるウォーターPPP導入に向けての丁寧な対応を求める意

見書の提出について」、「聴覚補助機器等の積極的な活用への支援を求める意見書の提出について」などの発議案4件が提出されました。その他、請願の審議や22人の議員による一般質問を行いました。

◆主な議案
○市川市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
国の家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の改正に伴い、小規模保育事業所等における保育士及び保育従事者の配置基準の見直しを行うものです。
○令和6年度市川市一般会計補正予算(第2号)
一般会計補正予算案は、歳出において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時国庫交付金償還金、新型コロナウイルス予防接種委託料、自転車乗車用ヘルメット購入費補助金など、歳入において、デジタル田園都市国家構想交付金、自転車乗車用ヘルメット着用促進事業補助金、新型コロナウイルス予防接種事業助成金収入など、それぞれ9億2,992万4千円を追加し、歳入歳出の総額を18億1,846万2千8百円とするものです。
【主な質疑】
「自転車乗車用ヘルメット着用促進事業は令和5年度にも実施していたが、申請件数と交付件数はそれぞれ何件あったか」との質疑に対し、「令和5年度の申請件数は1万1,281件、交付件数は1万4,944件であった」との答弁がなされました。また、「周知方法や手続きのしやすさについて、令和6年度に改善する点はあるか」との質疑に対し、「市公式ウェブサイトにSNSの活用以外にも、令和6年度は関係団体に周知の協力をお願いすることなどを検討している。また、申請手続きについては、令和5年度に引き続き、第2庁舎や大柏出張所、オンラインでの申請に加え、行徳支所における申請窓口の開設頻度を増やすことを予定している。更に、他の施設での申請窓口の新設も検討している」との答弁がなされました。

◆報告

6月定例会では、継続費の通次繰越し、繰越明許費の繰越し、事故繰越しの繰越し、下水道事業会計予算の継続費の通次繰越し、下水道事業会計予算の繰越しの他、市川市土地開発公社、公益財団法人市川市清掃公社及び公益財団法人市川市文化振興財団の令和5年度決算及び令和6年度事業計画、専決処分報告7件の、合わせて10件の報告がなされました。

4月臨時会を開催

市議会は、令和6年4月臨時会を4月26日の1日間、開催しました。4月臨時会は、竹内清海議員の資格決定の件について審議するため、議員から市長に対し、臨時会の招集を求めたものです。

4月臨時会では、竹内清海議員の資格決定の件について、資格審査特別委員会(下記参照)の委員を選任したほか、竹内清海議員による弁明、正副委員長を選任等がなされました。

また、市川市税条例の一部を改正する条例などの専決処分の承認を求める報告3件が提出され、採決の結果、市議会は、その全てを承認しました。

(審議結果一覧は8面に掲載)

資格審査特別委員会の設置

竹内清海議員が議長に対し、自身が地方自治法第92条の2(兼業禁止規定)に該当するかどうかについて決定するよう求める資格決定要求書を提出したことに伴い、資格審査特別委員会が設置されました。

(本特別委員会の詳細は7面に掲載)

市川市議会では、年4回の各定例会で、交渉会派(所属議員3人以上の会派)ごとに市長提出議案等その他市政全般について問う代表質問を行います。6・9・12月定例会における各会派の発言時間は、原則3日間の総会議時間を、会派数及び会派の所属人数に応じて割り振って決定します。質問は総括質問者が行う他、補足質問者を立てることができます。ここでは、会派が指定した項目の質問・答弁を要約して掲載しました。
 ※6月定例会の代表質問は6月3日に通告を締め切り、6月7日から3日間の日程で行いました。

代表質問



南行徳地域共生センター内の交流・休憩スペース

問 地域の高齢者から、いつでも集まって話ができる場所がほしいと相談されることが多くある。高齢者や子どもといった、年齢や属性に応じた地域の居場所づくりが必要と考えるが、現

地域の居場所づくり

状と今後の取り組みを問う。
答 本市で実施している、高齢者の余暇活動のための講座であるシニアカレッジについては、高齢者の相談窓口である高齢者サポートセンター等の関係機関と連携し、令和6年度より、直接声かけなどを行うプッシュ型での参加を促している。また、同年度に開設した南

行徳地域共生センター内に、地域住民が気軽に立ち寄り、交流や休憩などができるスペースを設けた。今後は、60歳以上の人が利用できるいきいきセンターにおいて、地域の高齢者が気軽に立ち寄れる居場所を作れないか検討を行っていく。

日本共産党
 (総括質問者)
清水みな子 やなぎ美智子
とくたけ純平 廣田 徳子

問 外環道路から成田国際空港までをつなぐ北千葉道路のうち、堀之内から鎌ヶ谷市初富までの約9km区間が整備されることに伴い、大町地域の梨農家などから、農地の分断により、移動時間が増加し、営農が困難に

北千葉道路の整備状況

なるといった声が届いている。そこで、本道路の整備状況と本市の対応を問う。
答 北千葉道路は、令和3年に堀之内から大町までの区間が事業化されたが、大町から鎌ヶ谷市初富までの区間は事業化されておらず、一般国道464号北千葉道路建設促進期成同盟会等において、国による早期事業化を要望している。市では、未事業化区間の事業実施に向けた環境を整えるため、地籍調査の実施を予定して

いる。事業化区間は国が、未事業化区間は県が窓口となるため、本市に寄せられた要望等は国及び県に伝え、市との関係部署との情報共有を図っている。



常夜灯公園

問 先日、市民から、常夜灯公園は喫煙者が多く、子どもを安心して遊ばせるこ

公園の禁煙化

とができるかとの相談があった。他の自治体では駅前広場などに喫煙所を設置し、公園は禁煙としている例もある。公園の禁煙化につき、現状及び市の見解を問う。
答 子どもなどの受動喫煙を心配する市民から、公園を禁煙にしてほしいなどの要望が多く寄せられたため、本市はまず、公園のうち児童遊園地を令和2年度に全面禁煙とした。その後、その他市内の公園内に設置されていた灰皿を撤去したほか、市民などから喫煙の連絡があった公園には、喫煙時のマナーに関する注意看板を設置するなどの注意喚起を行っている。市川市公共施設における受動喫煙防止対策(指針)では、多くの人が利用する市内の公共施設においては、敷地内を全面禁煙としていることから、将来的には全ての公園内での禁煙化を考えている。

問 地元の漁業者から、三番瀬のアサリなどが激減しており、漁場として衰えを感じるとの声が聞こえる中、塩浜2丁目の干潟整備は、覆砂により干潟の再生を行うことで、漁場としての再生につながるばかりか、市民が気軽に海辺にアクセスできるようにするメリットもある事業だと聞く。近隣

塩浜2丁目干潟整備

住民は塩浜地区が海に親しめるにぎわいのある場所となることを心待ちにしているが、最近一部の環境団体より、この海域には多くの生物が生息しているため、再生という名で自然破壊することは許さないと本事業に反対する声が上がっているとの報道が出ている。当該報道を受け、塩浜地区における干潟再生の施策が変わることはないか、理由も含め、改めて考えを問う。
答 三番瀬は市川市の財産

であるため、現在残っている三番瀬の海をしっかりと守っていくという考えのもと、



塩浜三番瀬公園

と、今まで自然を破壊してきた人類が手を加えることにより、自然を再生してい

く。干潟の再生に関しては、ここで自然の再生を行い、専門家である漁師や漁業協同組合の人々と、漁場の再生ということも含めて前に進めていきたいと考えている。このように覆砂を行う

く。干潟の再生に関しては、ここで自然の再生を行い、専門家である漁師や漁業協同組合の人々と、漁場の再生ということも含めて前に進めていきたいと考えている。このように覆砂を行う

く。干潟の再生に関しては、ここで自然の再生を行い、専門家である漁師や漁業協同組合の人々と、漁場の再生ということも含めて前に進めていきたいと考えている。このように覆砂を行う

行徳支所におけるDX推進

では、支所だけで手続きを完結できない場合があり、その時は本庁舎へ行くこととなるが、交通の便が悪い。行徳支所においてDXを推

中町 けい
 にしむた勲

つちや正順
 石崎ひでゆき

市民クラブ

進すれば機能が充実し、市民サービスを向上できると考えるが、市の見解を問う。
答 DXの推進により、行徳支所における市民サービスは向上するものと考えている。例えば、本庁舎と行徳支所を結ぶ遠隔窓口を設置することで、行徳地域の住民が本庁舎まで足を運ばなくても、オンラインで様々な相談や手続きが可能となる。遠隔窓口は多くの自治体で導入が進んでおり、本市でも遠隔窓口を導入することで、行徳地域に限らず本庁舎から離れた場所に住んでいる市民の利便性や行政サービスの向上に大きく寄与するものと考えている。

とができるかとの相談があった。他の自治体では駅前広場などに喫煙所を設置し、公園は禁煙としている例もある。公園の禁煙化につき、現状及び市の見解を問う。
答 子どもなどの受動喫煙を心配する市民から、公園を禁煙にしてほしいなどの要望が多く寄せられたため、本市はまず、公園のうち児童遊園地を令和2年度に全面禁煙とした。その後、その他市内の公園内に設置されていた灰皿を撤去したほか、市民などから喫煙の連絡があった公園には、喫煙時のマナーに関する注意看板を設置するなどの注意喚起を行っている。市川市公共施設における受動喫煙防止対策(指針)では、多くの人が利用する市内の公共施設においては、敷地内を全面禁煙としていることから、将来的には全ての公園内での禁煙化を考えている。

代表質問

6月定例会では、8つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の発言順及び発言時間(答弁含む)は次のとおりです。

創生市川(166分)、公明党(166分)、市川維新の会(81分)、市民クラブ(98分)、日本共産党(98分)、清風いちかわ(98分)、チームいちかわ(81分)、自由民主の会(81分)

※2次元コードから代表質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。



市川市動植物園のマイクロプタ

PRに努めている。今後は道の駅いちかわとのコラボ事業の実施や、インスタグラムなど若い世代に支持される媒体を活用し、周知・PRを行えるよう検討する。

科診療所を設置すべきである。例えば、大洲防災公園に隣接する休日急病等歯科診療所であれば、診療がない平日などに特殊歯科診療の実施が可能と考えるが、市の見解を問う。

特殊歯科診療所の設置

近隣市では障がいにより、一般歯科医院での治療が難しい人などを対象に特殊歯科診療所を設置している例がある。本市において健康寿命日本一を掲げるならば、口腔ケアは必要不可欠なものであり、気兼ねなく診療を受けられる特殊歯

市有バス貸出事業については、以前は多くの人が利用していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、令和元年度に休止された。しかし、その後、定例会での質問や要望などを受け、5年度から再開したとのことである。そこで、当該事業の現状及び今後について、市の見解を問う。

バス貸出事業

令和6年4月に新教育長が就任し、新たなスタートを切ったことと思われる。新教育長は、人生100年時代を見据え、100年を豊かに生きるための教育の創造を教育方針に掲げているが、就任から約2カ月が経過した中、日々の執務や学校訪問等から感じている

本市の目指すべき教育

ことや、本市が目指すべき教育についての考えを問う。

100年という人生を充実させるため、幼児教育から社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる学びが重要という認識のもと、本市教育の充実・発展に努めたいと考える。子どもの教育については、健康な心身を土台に豊かな心が伴い、確かな学力につながると考えており、市長が掲げる健康寿命日本一のまちの土台



ホームサバイバルトライアル

大規模災害が発生した際の在宅での避難生活を想定した訓練であるホームサバイバルトライアルは、自らの備えの有効であると認識している。この取り組みを多くの市民に知ってもら

在宅避難を想定した訓練

令和5年度に実施した自転車乗車用ヘルメット購入費補助金では、ヘルメット1個当たり2千円の補助金を交付していた。1人でも多くの市民がヘルメットを着用し、安全に自転車に乗車してほしいと考えており、6年度も本補助金が継続されることは、大変ありがたく感じる。そこで、6年度の制度概要及び5年度に実施した際の課題を問う。

ヘルメット購入費補助金

災害時における高齢者や障がい者等の避難支援を有効性があるものとするため、本市では令和5年4月より個別避難計画をシートで作成している。千葉市では、本シートが綿密に記入できる書式となっており、このことは命を守るために大変重要と考えるが、本市の書式も具体的な事項が記入できるよう変更できないか。また同時に、医療機器の電源喪失により生命の維持に懸念がある人などのための本計画の作成も必要と考えるが、市の見解を問う。

個別避難計画

千葉市のシートは災害別に支援方法の記入欄等があり、詳細な計画作成ができる書式となっている。本市の書式は当事者の活用しやすいさを第一に考えているが、計画作成に必要な事項を改めて精査し、見直しを図っていく。また、医療機器の電源喪失により生命の維持に懸念のある人などは、災害状況によっては命に関わるリスクがあるため、本計画策定の重要性が高いと認識しており、今後、計画作成に向け対応していく。

創生市川



小泉 文人 ほとだゆうな
国松ひろき 大久保たかし
石原たかゆき 稲葉 健二
加藤 武央 岩井 清郎

昼食費の助成

船橋市は令和6年1月から3月までの期間限定で、保育所等に通園している3歳児から5歳児に対する給食費の助成を実施したが、本市も同様の事業の実施は可能か。また、対象の限られる給食費の助成ではなく、昼食費として児童手当に上乗せすることで、幅広く助成することが可能と考えるが、市内全ての未就学児に対し昼食費を助成した場合、予算規模はどの程度か。

先行市では特殊歯科診療の実施に当たり、歯科医師会との協議を重ねてきたと聞いている。今後、障がい者等が必要な歯科診療を受けることができていないかなど、歯科医師会と連携し、課題把握に努めるとともに、近隣市の事例を参考に、特殊歯科診療を提供する体制について調査研究を行っていきたくと考えている。

公明党



西村 敦 小山田なおと
川畑いつこ 浅野 さち
久保川隆志 中村よしお
宮本 均 大場 諭

代表質問

清風いちかわ



竹内 清海

〔総括質問者〕
青山ひろかず

石原みさ子

松永 鉄兵

通学路の安全対策

問 令和3年に実施した通学路の一点検で検出された184カ所の危険箇所は、5年度末までに全ての安全対策が完了したとのことである。交差点での事故防止には、歩車分離式の信号機の設置が有効と考えるが、本市は今後、通学路の安全対策をどう行っていくのか

答 通学路においては、経年により安全対策の効果が低下している箇所等があることが課題だと認識している。そこで本市では市川市通学路交通安全プログラムに基づき、市内の小学校及び義務教育学校等を4つのグループに分け、それぞれ4年に1回、合同点検を実施し、検出された危険箇所について必要な対策を講じているほか、地域住民等からの通学路に関する情報提供を随時受け付け、適切な対応を実施するなどの安全対策に今後も取り組んでいく。

放置車両等の対策

問 現在、真間川下流部の



真間川の河川内に係留されている船舶

河川管理用通路には、多くの車両が放置されているほか、真間川の河川内には多くの船舶が不法係留されている。このことは、景観を損ねているだけでなく、治安上の問題があることから、できる限り早く撤去や移動をすべきだと考えるが、対策の現状及び課題を問う。

答 対策としては、真間川の管理者である千葉県葛南土木事務所に対して、放置車両の早期撤去及び不法係留船舶の移動等を要請したほか、県に要望書の提出を行った。県はこれを受け、車両の放置や船舶の不法係留を禁止する警告看板の設置や、当該車両等の所有者の確認及び特定等を行っている。所有者の特定ができないものの撤去が課題であり、この場合には、県による撤去を検討しているとのことである。本市も、現地の状況を注視しながら、県に協力し、対応を図っていく。

市川維新の会



〔補足質問者〕
堀内しんご

〔総括質問者〕
つかこしたかのり

運動会等の熱中症対策

問 市内市立小中学校の運動会や体育祭は5、6月頃に行われることが多いが、

この時期は、暑い季節へと向かうために体への負担が大きい上、紫外線が強い環境で行われている。そこで、本市は運動会や体育祭を実施する際にどのような熱中症対策を講じているのか。また、熱中症対策には、全ての児童生徒がテントに入れるようにすることが望ましいが、その現状及び今後について本市の考えを問う。

答 本市では、ガイドラインに基づき熱中症対策を行っている。この時期は、暑い季節へと向かうために体への負担が大きい上、紫外線が強い環境で行われている。そこで、本市は運動会や体育祭を実施する際にどのような熱中症対策を講じているのか。また、熱中症対策には、全ての児童生徒がテントに入れるようにすることが望ましいが、その現状及び今後について本市の考えを問う。

この時期は、暑い季節へと向かうために体への負担が大きい上、紫外線が強い環境で行われている。そこで、本市は運動会や体育祭を実施する際にどのような熱中症対策を講じているのか。また、熱中症対策には、全ての児童生徒がテントに入れるようにすることが望ましいが、その現状及び今後について本市の考えを問う。

また、熱中症対策には、全ての児童生徒がテントに入れるようにすることが望ましいが、その現状及び今後について本市の考えを問う。

また、熱中症対策には、全ての児童生徒がテントに入れるようにすることが望ましいが、その現状及び今後について本市の考えを問う。



熱中症対策のため応援席に設置されたテント

自由民主の会



中山 幸紀

〔総括質問者〕
加藤 圭一

細田 伸一

こども送迎ステーション

問 行徳駅前に設置されているこども送迎ステーションは、令和4年4月に開園してから2年が経過しているが、定員20人に対して利用者が8人しかおらず、利用状況が芳しくない。また、送迎先の保育所は1カ所の

みであり、他自治体の同様の施設と比べて少ない。そこで、こども送迎ステーションの設置の経緯、設置や運営に関する経費及び認識について問う。

答 こども送迎ステーションは、小規模保育事業所の卒園児や近隣の保育施設等に入所することができない児童について、自宅から遠距離にある保育施設への通

所を可能にすることも、保護者の利便性向上を目的として開設した。開所日時は、月曜日から土曜日の午前7時から午前8時30分及び午後5時30分から午後7時である。設置費用としては、設置事業者に対し、国庫補助を含めた1250万円を補助金として、また、運営費用としては、令和5年度の決算見込額になるが、運営事業者に対し、国庫補助を含めた約1600万円を委託料としてそれぞれ支出している。朝の送迎後、夕方に児童が戻ってくるまで施設が利用されていないことが課題であると認識しており、立地の良さ、児童を預かる施設として十分な設備を有していることなど



こども送迎ステーションの外観と送迎バス

を踏まえ、今後、有効な利用方法を検討していきたい。

本会議を傍聴するには

会議当日に市役所第1庁舎7階の受付へ直接お越しください。住所・氏名を記入するだけで入場できます。(傍聴席は94席あります)

※傍聴時は、受付の際にお渡しする注意事項をお守りください。

市民生活

図書館資料の
取り扱い

マナー向上についての取り組みは 引き続き効果的な呼びかけを行う



中町けい議員(市民クラブ)
令和5年度における市内全図書館の廃棄資料のうち約7割が汚損・破損による廃棄とのことである。適正利用に関する利用者の意識をどう変えていけるかが重要と考えるが、更なるマナー向上について、市はどのように取り組んでいるのか。

答 本市の図書館では「本が泣いています」と題した図書館内の廃棄本の展示や、子どもたちから公募したポスターや標語の使用など、マナー向上に対する周知等を行ってきた。今後は、広報いちかわへの掲載も検討するほか、他市の事例も参考にしつつ、より効果的な呼びかけを行い、マナー向上に取り組んでいく。

一般質問

6月定例会では、22人の議員が一般質問を行いました。各議員の持ち時間は1人60分(答弁含む)です。ここでは、1人1項目を選び質問・答弁を要約し、分野ごとにまとめて掲載しました。

※6月定例会の一般質問は、6月5日に通告を締め切り、6月17日から5日間の日程で行いました。
※2次元コードから一般質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。

市民生活

団体使用の更新手続き

提出書類や提出方法の見直しは 令和7年度に向けて見直しを進める

石原みさ子議員(清風いちかわ)

公民館を継続的に使用する団体が毎年行う使用者登録の更新手続きは、申請書類の簡略化や、紙提出以外の更新手続きなどを検討のほか、団体の会則、会員



名簿などを全て紙ベースで公民館の窓口へ提出することとされている。市民サービスマナー向上の観点から、提出書類の簡略化や、紙提出以外の更新手続きなどを検討のほか、団体の会則、会員

答 現在、令和7年1月から3月までの間に受け付ける7年度の団体登録の更新に間に合うよう提出書類の簡略化を含めた見直しを検討している。また、公民館に届かないような更新手続きが可能な新たな選択肢も提供できるよう見直しを進めているところである。

AEDの整備状況

公共施設の屋外への設置は 学校施設など65カ所に設置予定

丸金ゆきこ議員(チームいちかわ)

市内のコンビニエンスストアにAEDが設置されたとのことだが、設置状況と導入された機種の種類を問



う。また、公共施設の屋外に設置することについての検討結果はどうなったのか。

答 市内に店舗を持つコンビニエンスストア事業者5社と協定を締結し、令和6年6月1日から市内110店舗にAEDを設置している。導入した機種は最新のオートショック機能や、AEDの稼働状況を遠隔監視する機能も備えている。公共施設では7月以降、学校施設を中心に建物の入口や体育館など65カ所に収納ボックスを設置し、屋外にAEDを設置予定である。

自動車図書館

利用者の要望の把握は アンケートを実施していく

廣田徳子議員(日本共産党)

本市では、市内の図書館から遠い地域の人などのために車で巡回する自動車図書館を運行しているが、積



載する本の数は限られており、利用者の趣味嗜好に合わない場合もあるのではないかと考える。そこで、利用者の要望を把握するため、アンケートを実施するなど、自動車図書館が魅力的な存在になるように努めていく。

援農ボランティア

いちかわ援農隊の募集方法は 市公式ウェブサイトで随時受け付け

沢田あきひと議員(市川維新の会)

令和6年3月末から梨の花摘みボランティアが行われ、実施後のアンケートでは、実施後のアンケートでは、梨農家、ボランティア参



加者共に満足度が高かったとのことである。このような援農ボランティアの確保は重要と考えるが、本市の援農ボランティア団体では、いちかわ援農隊の活動内容と募集方法を問う。

答 いちかわ援農隊は農業従事者の要望に応じ、圃場の草刈りや営農施設の片付けなどの軽作業を行っている。募集については、市公式ウェブサイトですぐ随時受け付けており、今後も市公式ウェブサイトのほか、広報いちかわに掲載するなど広く募集したいと考えている。

公園

国分尼寺跡公園

看板設置について市の見解は 固定式看板の効果を踏まえ検討

門田直人議員(れいわ新選組)

隣住民からの苦情に対応するため、市が設置した注



意喚起の看板が65枚もある。状況に対し、市の見解を問う。

答 当該公園は数年前からボール遊びなどに対する苦情が多数寄せられたため、その都度簡易的な看板を設置し注意喚起を行ってきた。令和6年5月にボール遊びのルールを集約した固定式の看板を設置したため、今後はこの看板の効果などを踏まえ、公園内の看板の数を適切に見直ししていく。

保健・福祉

新型コロナワクチン

接種による死亡認定数は何人か 6件の申請のうち認定は1件

太田文之議員(参政党)

本市において、予防接種健康被害救済制度に係る、新型コロナワクチン接種による死亡認定数と、新型コロナワクチン接種による死亡認定数と、新型コロナ



ワクチン以外のワクチン接種による死亡認定数はそれぞれ何人か。また、死亡認定者に対し、市はどのような対応をしているのか。

答 令和6年4月末現在、本市における新型コロナワクチン接種に係る死亡事例として6件の申請があり、審査結果は、認定が1件、否認が2件、審査待ちが3件である。その他のワクチン接種については、平成6年以降、該当する死亡事例はない。当該死亡認定者へは、健康被害救済制度に基づく給付を行っている。

軟骨伝導イヤホン

本市の相談窓口を導入できないか 引き続き研究していく

川畑いつこ議員(公明党)

難聴で聞き取りづらい人のために、従来の骨伝導より痛みや音漏れが少ない軟骨伝導イヤホンが、多くの



自治体や銀行、警察署の窓口に取り入れられている。利用者からは声がクリアに聞こえて良かったなど好評が続き、また、高齢者にやさしい窓口となるよう、軟骨伝導イヤホン導入も含め、引き続き研究していく。

防災

水難事故防止

人命救助のデモンストレーションなどを実施 どのような啓発を行っているのか

野口じゅん議員(チームいちかわ)

江戸川ではこれまで繰り返し水難事故が発生している。本市が進める水辺のま



ちづくりにおいては、市民に水辺の魅力を感じてもらい、水辺に親しんでもらうと同時に、水の危険性も学んでもらうことができるのではないかと考えるが、水難事故防止のためにどのような啓発を行っているのか。

答 ウォータースタインいちかわでは、人命救助のデモンストレーションなどにより啓発を行っている。また、水辺のまちづくりのイベントでは、河川の知識啓発のためのパネル展示を行っており、今後は、河川の魅力や危険性とともに、その危険性もしっかり伝えていく。

道路交通

七中歩道橋の
修繕

請願採択後の状況は 県が6年度に設計業務を委託



市立第七中学校前の行徳バイパスに架かるいわゆる七中歩道橋については、管理者である県に対し、早急な修繕を市から強く要望するよう求める請願が提出され、令和5年2月定例会で採択された。そこで、その後の市の対応と現状を問う。答 5年4月に管理者である県に対し、請願書を添えて修繕の要望書を提出した。これを受け、県は、5年度に点検を実施し、歩道橋の主桁の腐食部分の補修が必要と判断した。6年度は補修の設計業務を委託し、工法の検討などを行うが、施工方法や施工時期については当該設計業務委託の中で決定することである。

西村敦議員(公明党)

都市計画道路
3・6・32号

歩道にベンチを設置できないのか 地域の声を聴きながら検討していく



都市計画道路3・6・32号市川鬼高線は、ガードレールに腰掛けたり寄り掛かったりする高齢者の姿が見られ、近隣住民からはベンチがあっても良いと思うという意見がある。当該歩道の北側と南側のそれぞれにベンチを設置することについて、市の見解を問う。答 当該路線は、市川市道路占用許可基準に定められた歩道にベンチを設置するための条件は満たしている。しかし、歩道に設置されるベンチは歩行者等の休憩場所として利用される一方で、ごみの不法投棄の問題が生じる恐れもあるため、今後地元自治会や地域住民の声を聴きながら検討していく。

とくたけ純平議員(日本共産党)

文化

芸術家・文化人の支援

ネットワーク形成を支援すべき より交流が広がるよう研究していく



大場諭議員(公明党)

市内には芸術家・文化人が多く住んでいるが、それぞれつながりが十分でないと感じる。芸術文化活動を

市が支援することは可能か。答 本市では、令和6年度に実施する芸術文化集会上において、様々なジャンルの芸術文化団体が一堂に会する催しや、幅広い年代が参加できる企画を予定しているところである。今後も、支援方法等について、国、県の動向や他市の事例などを参考に調査研究していく。

資格審査特別委員会の設置

令和6年4月臨時会では、「資格審査特別委員会」が設置され、委員と委員長・副委員長が選出されました。

■設置の経緯

令和6年4月26日、竹内清海議員が議長に対し、自身に地方自治法第92条の2(兼業禁止規定)に抵触するとの疑義が生じているとして、同条の規定に該当するかどうかについて決定するよう求める資格決定要求書を提出したことに伴い、委員会条例第7条第1項の規定により、資格審査特別委員会が設置されました。また、同日の本会議において、本特別委員会に同法第98条第1項及び第100条第1項に係る調査権(以下「100条調査権」という。)が付与されました。

本特別委員会は15人の委員で構成され、竹内清海議員が兼業禁止規定に抵触するかどうかについて調査・検討を行っています。

■地方自治法第92条の2(兼業禁止規定)

普通地方公共団体の議会の議員は、当該普通地方公共団体に対し請負をする者等になることができないこと、及び一定の要件に該当する法人の取締役、監査役等の役員になることができないことが規定されています。

竹内清海議員は、自身が株式会社コマツの監査役に就任していたことが、同条後段(波線部)の規定に抵触していたかどうかについて決定するよう求めています。

■中間報告

6月定例会では、6月21日の本会議において、本特別委員会の細田伸一委員長から、これまでの審査経過について中間報告がなされました。報告の主な内容は次のとおりです。

- 竹内清海議員が株式会社コマツの監査役に就任していたことが明らかになったことから、地方自治法第92条の2の規定に抵触するかどうかについて、これまで4回にわたり本特別委員会を開催し、議長に対し100条調査権を委任するよう申し出ることを決定した。100条調査権を付与することには反対の意見もあったが、本会議において、本特別委員会に100条調査権を付与することが決定された。
- 竹内清海議員から提出された同社の売上高に占める本市の売上割合などが記載された資料等を確認した。
- 契約事務を所管する理事者に対し同社の情報等について質疑を行った。
- 委員外議員として出席した竹内清海議員からは、委員の質疑に対し、本件に関する経緯、同社の監査役に就任した際の認識、同社との関係等について答弁がされた。
- 竹内清海議員が同社の監査役に就任以降、本市と同社との契約に係る3件の議案が、除斥事由に該当する竹内清海議員を除斥せずに議決されたことを検出し、これらの事案について議長に対し報告することが全会一致で決定された。
- 協議の結果、「同社の本市に対する請負量が全体の請負量の半分を超えていたかどうか」との論点については、半分を超えていないことを確認し、それ以外の論点について、引き続き審査していく。
- 同社の代表取締役から提出された資料を確認し、参考人として出席した当該代表取締役に対し意見聴取を行った。
- 竹内清海議員の議員資格の有無が明らかとなるよう、引き続き、疑義の解明に全力で取り組む。

資格審査特別委員会(定数15)

委員長	細田 伸一	副委員長	越川 雅史		
委員	門田 直人	丸金ゆきこ	国松ひろき	とくたけ純平	西村 敦
	中村よしお	石原たかゆき	廣田 徳子	にしむた勲	堀内しんご
	宮本 均	小泉 文人	松永 鉄兵		

(名簿及び開催の経過は令和6年7月25日現在のものです。)

開催の経過

第1回	4月26日(金)
第2回	5月14日(火)
第3回	5月29日(水)
第4回	6月12日(水)
第5回	6月24日(月)
第6回	8月9日(金) ※予定

6月定例会 議案等の審議結果一覧

Table with columns for item name, party support (賛成/反対), and decision result (可決/承認/不採択).

人事議案 請願 意見書・決議
6月定例会には、市長から、公平委員会委員の選任についての議案が提出され、議会は、これに同意しました。
公平委員会委員 小山達也 (敬称略)
(審議結果は左表)

聴覚補助機器等の積極的な活用への支援を求める意見書(要旨)

今日、社会の高齢化に比例して、難聴の方も年々増加している。近年、耳の軟骨を振動させて音を伝える「軟骨伝導」等の新しい技術を用いた聴覚補助機器が開発された。
よって、本市議会は政府に対し、様々な難聴者に適用できる聴覚補助機器等の選択肢が整った今、我が国のさらなる高齢化の進展を踏まえて、認知症の予防とともに、高齢者の積極的な社会参画を実現するために、下記の事項について、聴覚補助機器等の積極的な活用を促進する特段の取組を求める。
1. 難聴に悩む高齢者が、医師や専門家の助言の下で、自分に合った補聴器を積極的に活用する環境を整えること
2. 耳が聞こえにくい高齢者や難聴者と円滑にコミュニケーションを取れる社会の構築を目指し、行政等の公的窓口などに、合理的配慮の一環として聴覚補助機器等の配備を推進すること
3. 地域の社会福祉協議会や福祉施設との連携の下、聴覚補助機器等を必要とする人々への情報提供の機会や場の創設等、補聴器を普及させる社会環境を整えること

4月臨時会 議案等の審議結果一覧

Table with columns for item name, party support, and decision result.

※出席した会派の議員全員が、賛成：○、反対：×、出席した会派の議員の一部が賛成・一部が反対：△
※可答申：異議ない旨答申
※議案の全文及び議員別の賛否は市川市議会のホームページに掲載しています。

令和6年定例会開会予定日
9月定例会 9月6日(金)
12月定例会 11月29日(金)
※上記は予定であり、事情により変更される場合があります。

会派別議員名簿 (定数42名)
石原よしのり 市民の力
門田直人 市民の力
れいわ新選組
太田文之 参政党
増田好雅 参政党
越前川秀史 参政党
無所属の会
つかこしたかのり
沢田あきひと
堀内しんご
市川維新の会
細田伸一 自由民主の会
加藤圭一 自由民主の会
中山幸紀 自由民主の会
富家じゅき 自由民主の会
丸口じゅき 自由民主の会
チーミーちかわ
松永鉄兵 自由民主の会
石原みさ子 自由民主の会
青山ろく 自由民主の会
竹内清海 自由民主の会
清風いちかわ
石崎ひでゆき 自由民主の会
つちやま正順 自由民主の会
中町けい 自由民主の会
市川維新の会
廣田徳子 自由民主の会
とくたけ純子 自由民主の会
やなぎ美智子 自由民主の会
清水みな子 自由民主の会
日本共産党
岩井清郎 日本共産党
加藤武央 日本共産党
稲葉健二 日本共産党
石原たかゆき 日本共産党
大久保かづき 日本共産党
ほとひろし 日本共産党
小松ゆうな 日本共産党
創生市川
大宮隆志 創生市川
中本よしお 創生市川
久保隆志 創生市川
浅野さちこ 創生市川
川野つとむ 創生市川
西山なつお 創生市川
公明党 (定数42名)

※○は会派代表者。 ※市議会では会派制をとり議会活動を行っています。なお、所属議員3人以上の会派を、議会運営委員の選出などができる交渉会派としています。(この会派別議員名簿は令和6年7月25日現在のものです。)

●議員からの寄附やあいさつ状(答礼のための自筆によるものを除く)は公職選挙法で禁止されています●